

EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー

2012.4.1

No.92

三月の中旬に妻と一緒にハワイに行ってきた。ハワイにある教会の日本人クリスチャンたちと交わりをしたり、働きのお手伝いをしたりするためです。子どもたちは自分たちで食事の用意・家事をするように計画を立て、張り切っていました。結局は教会のメンバー家庭に招かれもてなしを受けていました。

日系人がたくさんおられ、日本語がかなり使えると言ってもやはり異国です。またアメリカといえども本土とは様子も異なります。「ネクタイをしているのはモルモン教徒と弁護士だけ」と言われ、結婚式にもほとんどがアロハシャツで参加するので驚きです。

普段使われているのはもちろん英語ですが、公用語にはハワイ語もあります。「アロハ、ホノルル、フラ」などはハワイ語なのです。絶滅危機言語の一つですが、保存運動も行われています。実は古くから原住民たちが使っていたハワイ語には文字がありませんでした。今はアルファベットを使って表記をしています。これは十八世紀後半に生きた一人のクリスチャンの努力によるところが多いのです。彼の名は「オボオキア」。不幸な幼少時代を過ごした彼は十五歳のときに港に停泊していた商船の乗組員となりアメリカにたどり着きます。そこで聖書に触れ

揺るがないものを見出した人々



はハワイ語の発音をアルファベットを使って表記する方法を考え出したのです。志半ばで病に倒れましたが、彼の遺志を継ぎ多くの宣教師たちが十九世紀になってハワイに赴いたのです。

世界のことは最低でも三千以上あります。そのうち書き言葉を持っている言語は多くなく、それも途中で作られたものが多いのです。その大半がクリスチャンが聖書を翻訳するために考案したものです。無神論国家として名を馳せたソ連という国も使っているキリル文字は、宣教師が考案したものが土台であったと言いますから皮肉なものです。

ハワイと言えは真珠湾。七十一年前の十二月、日本軍の真珠湾奇襲攻撃によって太平洋戦争が始まったのです。攻撃隊の総指揮官だったのが淵田美津雄です。攻撃成功の暗号であった「トラ・トラ・トラ」を打電したことでも知られており、記念館にも写真が掲示されています。(下写真)しかし、戦時中には英雄でも、敗戦後は人々の冷たい視線にさらされ人生について考えさせられたのです。以下は淵田氏の文章からの抜粋です。

「ある日、私は所用があつて渋谷駅に下車し

クリスチャンになります。この良い知らせを故郷の人々に知らせたかったのですが、文字を持たないハワイ人に伝えるには困難極まりない事です。そこで彼

ました。駅前に出ると、一人のアメリカ人が道行く人々にパンフレットを配っていました。私も行きずりに渡されたので、眺めて見ると『私は日本の捕虜でした』と題してあり、一人のアメリカの軍曹の写真が掲載されていたのです。それはかつて東京爆撃隊の爆撃手であった、J・デシーザーの手記でした。

私の心は動きました。特にデシーザーが捕らわれて獄中で虐待されているときに、彼はなぜ人間同士がこうも憎み合わなければならぬのかと考え、『人類相互のこうした憎悪を真の兄弟愛に変えるキリストの教えというものについて、かつて聞いたことに心が向き、聖書を調べてみようという不思議な欲求にとらわれた』と言っていることが、同じ心境にある私の心を捕らえたのでした。...

こうして彼は聖書を読み始め、真理に触れ、やがてイエスを信じるに至ります。

「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました」

(第二コリント五章)

彼の生き方は一変しました。創造主なる神との出会い方は人それぞれです。実は私たちが神を知りたいと思う以上に、神の方が熱心に私たちに語りかけておられると聖書は言うのです。



六年間の思い出

R

私は四月で中学生になります。小学校の六年間、ホームスクールで学びました。六年間で一番印象に残っていることは、「白馬セミナー」と「社会見学」です。

白馬セミナーは、毎年十一月に行っていて多くのホームスクールの友だちもでき、いっぱい遊べて本当に楽しかったです。社会見学も何度も、家族や友だちと一緒に行きました。

「日銀」「造幣局」「姫路城などの城めぐり」「ミヨシ石鹸などの工場見学」、他にも社会の教科書で学んだところに実際に行くことによっていろいろなことを教えてもらいました。

また、理科の学習は、この世界と人間を造られた創造主がおられるということが土台にある教科書を使って、お母さんと少しずつ理科を勉強してきました。これは、学校では絶対できないことだと思えます。理科の教科書ですがみことばなどもたくさんでてきて、いい教科書でした。家でもできる実験などもあつて興味深かったです。「りかキャンプ」にも三回行きました。

週に四回、祖父母の家に行って、「いちじく会」と言つて、聖書の書写や輪読をして聖書の勉強をしました。聖書のこともわかつてすごく楽しいです。聖書の書写のノートは、十冊以上になり、はじめのころのノートは幼い字で恥ずかしいですが、今では宝物です。

中学になったら、聖書と本をいっぱい読んで勉強をしたいと思えます。

三月
「こんなことしました！」 行事報告

- 一日 H・十八歳誕生日
- 合同公文教室と歯みがき講習
- 十日 Jクラブ「ヤクルト工場見学」
- 二十二〜二十四日 バイブルキャンプ（神戸自然の家）
- 二十三日 E・十四歳誕生日
- 二十七日 音楽の集い
- 二十七〜三十一日 E・東北ボランティア（一関ベース）

鳥取旅行

N

私が小学三年生の時から友達であり、ホームスクーラー仲間であるMちゃんに会うために、鳥取に高速バスを利用して出かけました。

今回は日本最大級のフラワーパークであるところと花回廊に車で二時間ほどかけて行きました。私の祖母はお花が大好きなのでその影響で私もお花にはすごく興味がありました。フラワードームという巨大なガラス温室があり、そこは熱帯にある植物に満ちあふれていました。私にとって洋ランという観葉植物が一番印象深かったです。一輪ずつ垂れ下がっていて奇妙な形でした。残念ながら三月ではまだ十分に花が咲いておらず来園者も少なかったです。しかしそのお陰で、花の手入れをしている作業員さんからお話を聞くことができましたし、四月にはチュ

ーリップや桜が満開になるそうです。次回は是非四月に行きたいです。

他にはショッピングをしたり、スイーツを食べたり、プリクラを撮ったりと三泊四日の旅はあつという間に過ぎていきました。

Mちゃんは四月から高校生になり、寮に入ることになったので、もしかしたら何年も会えないかもしれませんが、今回の宿泊でお互いに良い刺激を受けることができました。何よりも私は高校一年生の最高の思い出を作ることができました。



↓この木何の木？
気になる木！です。

編集後記

進路が決定いたしました。長男は二浪めに突入。長女は看護専門学校へ進学。結果はどのようなものであつても、慌てず、騒がず！最善を尽くしたことは、そばにいた私たちが認めるのですから、あとは創造主なる神に任せるのみです。一人ひとり最善の道を用意されていることを確信している家族一同です。